白鷗大学教職支援センター

Center News

Center for Cooperative Research and Development in School Education.
Faculty of Teaching Support, Hakuoh University.

第４号
（2026年３月20日発行）

第４号の発行にあたり



白鷗大学教職支援センターは，教員を目指す学生への総合的な支援と，教育現場の活性化を図ることを目的として，令和４年４月に設置されました。センターには，教育実習の質向上と学生の成長を支える「実習指導部門」，在学中から卒業後まで一貫したキャリア支援を行う「教職支援部門」，そして教員養成システムの点検や現職教員の資質向上に取り組む「教育課程開発部門」の３部門があり，互いに連携しながら特色ある活動を展開しています。

この春に教員として新たな一歩を踏み出す卒業生の皆さん。教育現場では，時に悩みや壁に直面することもあるでしょう。そんなときは，どうか母校の教職支援センターを思い出し，気軽に相談してください。皆さんが現場で自分らしく力を発揮できるよう，私たちは卒業後も変わらず寄り添い続けます。

また，大きな志を胸に入学された新入生の皆さん。教員として必要な資質や能力を身に付ける道のりは，一人で歩むものではありません。当センターは，学修方法の相談から教育実習のコーディネートまで，皆さんが理想の教師像に近づけるよう全力で支援します。

本冊子では，2025年度のセンターの取り組みをまとめています。卒業生も新入生も，ぜひセンター窓口やメール等を通じて気軽にご相談いただき，私たちの支援を活用してください。皆さんの成長と活躍を，教職員一同，心より応援しています。

白鷗大学教職支援センター
〒323-8585　栃木県小山市大行寺1117番地
E-mail：kyoshoku-center@ad.hakuoh.ac.jp
ＵＲＬ：https://hakuoh.jp/kyoushoku-shien/

目 次

● 01 巻頭言：**第４号の発行にあたり**
● 02 報 告：**教員の育成につなげる教育実習に向けて**
● 04 報 告：**公立学校教員採用支援の取組**
● 05 特別寄稿：**嬉しい再会と新たな学び**
● 06 報 告：**教職課程の自己点検・評価の取組**
● 07 報 告：**学び続ける教師のための教員研修リレー講座**

● 報　告

教員の育成につなげる教育実習に向けて

実習指導部門

本学の教育実習は，栃木県教育委員会をはじめとする各県市町村教育委員会との緊密な連携の下，例年300校以上の実習校と共に教育実習を実施している点が一番の特色です。今年度も20都道府県351校の協力を得て，充実した教育実習を実施することができました。このように，みなさんは大学で学ぶだけでなく，地域の学校の先生方にも育てていただいています。実習校の先生方に感謝しつつ，アンケート調査結果の分析・考察を踏まえ，教育実習をふり返っていきましょう。

【本年度の状況】

教育実習後のアンケート（主免許実習対象 有効回答数158名）では，「とてもそう思っている／いた」の割合が，入学時の56.96%から教育実習後の64.56%に増加し（図1），以下の自由記述が見られました。

・教師という職業にやりがいを感じ，どうすれば授業が上手くいくか，子供たちを引きつけることができるかを考え，上手くいった時にすごく達成感を感じ，教師になろうと決めた
・教育現場を間近に見て，生徒理解，教材研究に力を入れ，どのようにすれば良い活動が出来るか，どのように工夫すれば生徒にとってためになる授業ができるか等を日々考え，試行錯誤を練っていくうちに，自分が本当の教師のようになったと感じたから
・子どもたちと1か月間過ごして，子どもたちの成長と頑張りを近くで見守り，支えていける仕事にとてもやりがいを感じたから

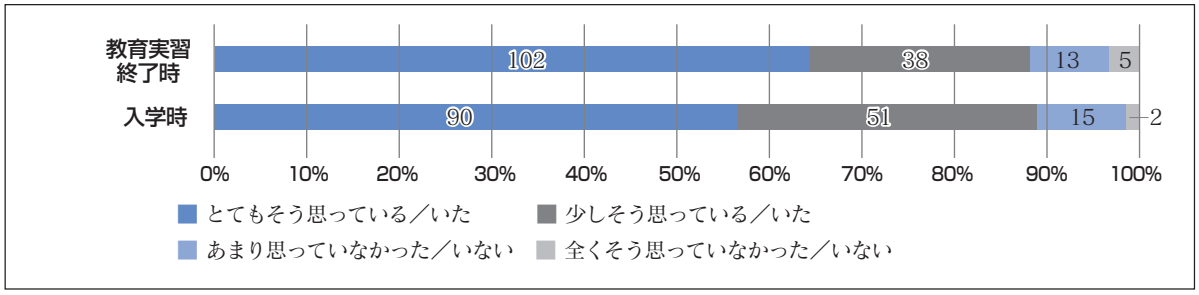


図１「学校の教員になりたい」と思う気持ちについて

教師は，子供とのかかわり・授業技術などの難しさにも直面します。しかし，白鷗生のみなさんはその難しさを自分の目で見て肌で感じても，それ以上の充実感・素敵な思い出が得られたのではないでしょうか。ぜひその気持ちを大切にしてください。みなさんが教職という道を進む上で，重要な原動力になるはずです。

一方，教員になりたい気持ちの低下も見られました。教師は，こどもの人生に深くかかわるため，こどもがかわいいだけでは続けられない仕事です。例年，実習を機に進路を見つめなおす学生もいます。以下の自由記述もまた，白鷗生の正直な気持ちなのだと思います。

・授業準備に追われる日々で，自身の自由の時間がほとんどなくワークライフバランスが保てないと感じた
・授業をすることがとても難しいと感じ私にも本当に教員になってできるのか，教員として仕事を続けていけるのか不安になったから

【次年度に向けて】

教員採用試験の倍率低下，教員の過酷な環境が注目されていますが，そうした状況下でも教師を志望する学生が毎年，本学に多く入学しています。これは非常にありがたいことです。充実した実習を送る土台を整え，不安と向き合いながら安心して学べる環境を提供し，実習で得たものをさらに伸ばして卒業後に本当の教員としてこどもたちのところへ戻れるように，これからも白鷗生の自己実現のために，大学として一層力を入れていきます。

参考　教育実習の記録

怒涛の４週間!?（9月22日～10月17日）　発行者　村上滉輔



「全校生」の授業指導





～実習校の紹介～



福島県三春町立中郷小学校
全校児童　28 名
完全複式学級

―実習の概要―

私が実習を行った学校は,全校児童が 28 名の小規模校であり,複式学級での授業となっています。担当した授業は全て単学級ではありましたが,授業の大半は複式制で実施されています。

実習では、１年生～3 年生の国語、４年生～6 年生の算数、４年生・6 年生の道徳の計 8 回の授業を担当しました。教科が変わるだけでなく学年も異なるため、前時までの学習とのつながりや授業の工夫など、さまざまな点で頭を悩ませる場面がありました。一方で、全校児童数が少ないからこそ、一人ひとりに寄り添った学習支援を充実させることができ、授業中の学習状況を丁寧に見取る方法を身に付けることができました。休み時間には、全校児童と鬼ごっこやドッジボール、バスケットボールなどで一緒に汗を流して過ごしました。また、給食の時間も全校児童とともに楽しく過ごしました。

―1 日の流れ―

7:40	出勤
8:10～8:20	朝の会
8:20～8:30	読書タイム
8:30～9:15	1 校時
9:20～10:05	2 校時
10:05～10:20	業間
10:20～11:05	3 校時
11:10～11:55	4 校時
11:55～12:35	給食
12:35～13:20	昼休み
13:20～13:35	各種活動
13:40～14:25	5 校時
14:25～14:35	帰りの会
14:35～15:20	6 校時
16:40	退勤

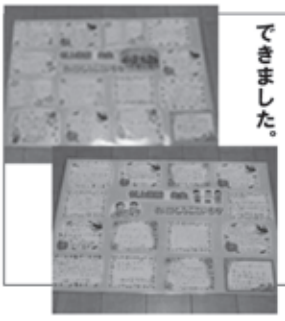




―授業実践の内容―

1 年生　国語「まちがいをなおそう」
2 年生　国語「主語と述語に気をつけよう」
3 年生　国語「修飾語を使って書こう」
4 年生　算数「計算の約束を調べよう」
　　道徳「正しいと思うことは『ドッジボール』」
5 年生　算数「単位量あたりの大きさ
　　比べ方を考えよう(1)」
6 年生　算数「角柱と円柱の体積の
　　求め方を考えよう」
　　道徳「自由と責任『修学旅行の夜』」
　　（↖研究授業）

教材研究の難しさ...
学年が異なる＝使える漢字の確認、言葉遣い、机間指導の時間、想定される児童の反応 etc



―実習を終えて―

４週間の実習をとおして,子ども達との関わり方について実践的に学ぶことが出来ました。他の学校ではできないようなことも数多く経験でき,大変充実した実習となりました。

この期間の中で,教材研究の必要性とその難しさについても感じることが出来ました。特に全校生の授業を担当したことで,幅広い想定を持つことの必要性,発達段階に応じた学習支援の重要性など,多くの学びを得ました。

個人個人の関わりも非常に濃いものとなり,児童との関係構築の楽しさと難しさを実感することができました。

● 報　告

公立学校教員採用支援の取組

教職支援部門

採用の変革や学校現場の改革等、教職に関する情報は毎年アップデートが必須であり、学生はそれらを迅速かつ正確に把握して自己選択・自己決定・実践していくことが重要です。本学では教職志望者数は減少していないことから、全ての学生が自己の進路と真剣に向き合うことができるように、引き続き学生の自主・自律を重視して支援を継続していきたいと考えています。

【今年度の実績】

１．４年生の状況

2025年度	小	中・義	高・特	計
受験者数	172児143ス21英8	53ス31英18心3法1	高4ス2英1経1 特1児1	230
一次合格	166児139ス19英8	29ス17英11法1	高1経商1特1児1	197
二次合格	155児129ス19英7	18ス11英7	高1経商1特1児1	175
（講師登録）	（41　児12　ス16　英9　心3　経1　法0）			未

※ 全体合格率76.1%（小90.1%　中34.0%　高特40.0%）　※ 高商３年連続合格（福島県1→群馬県1→東京都1）

２．既卒者を含めた自治体別の状況

新卒／175名
栃木県81（小75中英2中体4）福島県25（小20中英1中体4）茨城県23（小20中英2中体1）埼玉県9（小7中体2）さいたま市1（小）神奈川県5（小）川崎市6（小）群馬県4（小）新潟県4（小）新潟市3（小）東京都4（小3高商1）山形県5（小3中英1特1）青森県2（小1中英1）千葉県1（小）山梨県1（小）静岡県1（小）

新卒講師登録／41名

既卒／85名
栃木県45（小33中英2中体8特2）東京都7（小）群馬県6（小3中社1中体1高体1）福島県5（小1中社1中英1中体2）茨城県3（小1中英1特1）神奈川県2（小1特1）川崎市2（中体1特1）相模原市1（小）さいたま市2（中社1中体1）新潟県2（小）新潟市4（小）宮城県2（小1中体1）仙台市1（中体）浜松市1（中英）三重県1（特）沖縄県1（中社）

○３年次受験の動向

一次合格数102／受験者数145（昨年度 67／115）　※早期受験は増加傾向である。

【本年度の支援内容】

・通　　年　　一般教養 論作文
・４月～６月　　筆記対策の継続「面接個票」を活用した段階的な二次対策
・７月～９月　　場面指導、模擬授業、実技等を扱いながらの個人面接対策 実技
　　集団討論（主に昼休み時間を活用）
・11月～12月　　（次年度向け）教育実習の学びや体験とリンクした学習指導や生徒指導の原理原則
　　12/10　　全体ガイダンス（新4･3年生の教職進路希望者の確認と支援の説明）
・１月～３月　　主に春休みを活用した教職教養のまとめ 出願について
　　大学推薦学内選考

【次年度に向けて】

2026年度は2027年度以降の一次試験共通化に向けて国や地方自治体が本格的な検討に入ります。現在、65自治体のうち51自治体が共通試験への参加を検討しています。このような情報を的確に把握し、対応していく予定です。

● 特別寄稿

本学の卒業生であり、2025年度後期には本学教育学部に内地留学され、現場の視点を生かして研究に取り組まれた竹内菜摘先生に、白鷗大学での学びや教員としての歩みについてご寄稿いただきました。



嬉しい再会と新たな学び

小山市立大谷北小学校　**竹内　菜摘**

約10年振りの白鷗大学には、変わらない風景とお世話になった教授、そして新しい出会いがありました。再びこの大学で学ばせていただく機会をいただけたことに、感謝しています。私は白鷗大学にて教育学部英語教育専攻を卒業し、小学校教員として勤務しています。現在は内地留学制度という機会を活用し、半年間白鷗大学で講義を受けて、学ばせていただいております。

元々入学前から教員になりたいという夢をもって、この白鷗大学に入学しました。１年生の頃は少し部活に入ったり、たくさんの教授の講義を受けたりしました。また、社会人になった今でも付き合いがあるような大切な友達もたくさんできました。講義が終わると夕方から夜にかけてアルバイトをして、自分の趣味である音楽にもたくさんの時間とバイト代を費やしていたような気がします。教員になるという夢を叶えるための勉強をして、自分の好きなものに集中できる時間があって、友達との楽しいキャンパスライフがあって今改めて考えると、とても充実した生活を送っていました。２年生の時には、インディアナ研修にも参加し、アメリカの大学に通ったり、ホームステイをしたりなど、とても貴重で楽しい２週間を過ごすことができました。そして、スクールサポーターや教育実習を通して、在学中に学校現場にも何度も行かせていただきました。子どもたちや先生方と関わる中で、教員になりたいという夢に近づけている自分を実感して、嬉しくなったことを今でも覚えています。

しかし、実習後や教員採用試験の勉強を進めていく中で、進路について悩んでしまうことがありました。周りの友人も試験勉強に励む中、困った時に相談に乗ってくださったのが教授でした。小学校の教員を目指していたのですが、英語についての勉強を深めていく中で、教科として英語を教えたいと考えるようになったからです。当時はまだ小学校での外国語科は必修となっていなかったため、英語を専門的に教えるには中学校を希望するべきではないかと考えていました。教授は私の考えをよく聞いてくださり、自分の経験談も踏まえて丁寧に助言をしてくださいました。結果として現在、小学校教員になりたいという夢を叶え、今年度は英語専科として児童に英語を教えることができています。

また、教員採用試験に備えた勉強では、教職支援室の先生方にも大変お世話になりました。面接の練習を何度もしていただき、論作文の添削までいつも丁寧に見てくださいました。面接の受け答えがスムーズにできるようになった頃、つい模範解答を考えすぎて、自分がどんな教員になりたいのか、何を大切にして教育に携わっていきたいのかが分からなくなってしまったこともありました。そんな時に教職支援室に相談に行くとすぐに対応してくださり、白紙に私の考えを文字にして書き起こしてくださり、そのやり取りから大切にしていきたいものを再確認することができました。その時から今もずっと、「相手のことも、自分のことも大切にできる思いやり」を忘れずに、子どもたちにも伝わるよう意識して過ごしています。試験に合格するためでなく、その先を見据えて指導してくださった白鷗大学の先生方には、今も心から感謝しています。

小山市の小学校に勤務してから、学級担任や外国語科主任などの仕事をさせていただいていましたが、現在の勤務校では英語専科として英語の授業を担当し、外国人児童指導担当教員として日本語指導が必要な児童への対応を行っています。外国人児童への直接的な指導は支援員が行っているのですが、外国人児童やその保護者と関わっていく中で、もっと自分に何かできることはないかと考えるようになりました。そして内地留学で学ぶということを校長先生や先輩の先生方に聞き、外国人教育について学ばせていただく機会をいただきました。講義を受けながらさまざまな国や言語について学んだり、教育について見つめなおす機会をたくさんいただいたりしています。図書館の資料も活用させていただき、多くの知識を得ることができていると感じています。また、大学生と関わる中での気付きも多々あり、日々新鮮な気持ちを得ながら勉強しています。この半年間で学んだことを生かし、これからの教員生活でよりたくさんの子どもたちと関わりながら、精進していきたいです。

● 報　告

教職課程の自己点検・評価の取組

教育課程開発部門

本年度は，「白鷗大学教職課程PLUS ULTRA意見交換会」を実施しました。これは，教職課程に関わる各委員会，部会等のメンバーが集まり，令和6（2024）年度に実施した教職課程の自己点検・評価チェックリストの結果を共有・協議するとともに，実務レベルでの課題意識を踏まえ，本学教職課程をよりよいものへと改善する方策について意見交換するものです。なお，白鷗大学教職課程PLUS ULTRA意見交換会は，令和７（2025）年度教職課程の自己点検・評価の一部として位置付けて実施されました。

【本年度の実施状況】

参 加 者：教職支援センター，教職等課程委員会（各実習委員会，介護等体験作業部会），教務委員会，FD委員会，SD委員会，自己点検・評価委員会，他専攻免許委員会，教員採用支援部会，学校インターンシップ支援部会の委員長・部会長等

形　　式：令和６(2024)年度実施の教職課程の自己点検・評価チェックリストの結果に基づいて,関係委員会・部会等のメンバーと特筆すべき取組みや改善方策について意見交換を行う。

今回の意見交換会を通じて，現状の課題を確認すると同時に，より良い教員養成を目指すという共通の目的を再認識することができました。また，本意見交換会の議事録を各学部教授会にて報告し，大学全体で共有しました。そして，今回の議論を踏まえ，担当委員会・部会等において教職課程の質保証の向上・改善を図るための具体的な方策について，検討が始まりました。



意見交換の様子

【次年度に向けて】

教育職員免許法施行規則第22条の８に基づき実施した教職課程の自己点検・評価の結果について，本学では，原則として４年ごとに報告書としてとりまとめることとしています。これは，データを収集し，教職課程に関わる各委員会，部会等のメンバーで協議を重ね，改善方策を検討するためです。次年度は，その報告書を作成する年にあたります。これまで実施してきた教職課程の自己点検・評価の結果を踏まえ，教職支援センターを中心に，３つの基準領域，６つの基準項目ごとに分析・総括を行い，それらを包括的に整理した自己点検・評価報告書を作成します。次年度の取組を通して，大学関係者や社会に対する説明責任を果たすとともに，今後の教育改善と教員養成の水準の向上を目指してまいります。

内　　容：教職課程の自己点検・評価報告書の作成
依頼対象：教職課程に関係する委員会の委員長等
形　　式：３つの基準領域，６つの基準項目に基づく31観点についての記述式。
備　　考：作成した「教職課程の自己点検・評価報告書」を全国私立大学教職課程協会に提出する。審査を終えた後，教職支援センターHPにて報告書を公開する。

● 報　告

学び続ける教師のための教員研修リレー講座

教育課程開発部門

近年の学校や教職員を取り巻く環境は厳しいものとなり，現場の先生方には，さまざまな課題に対する早急な対応が求められています。そこで，本学を含む大学教員や専門家の方々が，それぞれの研究をもとに，現代的な課題についてわかりやすく語りかける講座を開催することで，皆様に現代的学校教育課題を解決できる資質・能力を身につけていただきたいと考え，「学び続ける教師のための教員研修リレー講座」を開催しています。

【本年度の実施状況】

以下のような内容で実施しました。昨年度と同様に，講座の内容に関しては概ね好評であり，役割は果たせていたと思われます。ただし，1講座あたりの参加人数は約35名と減少していることから改善図る必要があると考えます。

第１回講座 6月14日(土)	佐々木 幸寿 先生 東京学芸大学＜学校法＞	学校における最新法規の活用 －リーガルマインドと危機管理－
第２回講座 8月 2日(土)	瀬野尾 千恵 先生 元横浜市教育委員会指導主事 元横浜市立いちょう小学校長 元デュッセルドルフ日本人学校長 ＜多文化共生＞ 向井 正太 先生 白鷗大学 准教授 ＜応用言語学＞	多文化共生の学校づくり －外国人集住地区・横浜市立いちょう小学校での取り組みを振り返る－
第３回講座 8月23日(土)	金井 正 先生 白鷗大学 教授 ＜教育学・教師論＞	人生を前向きに生きる力 －７つのキャリアUP－
第４回講座 9月27日(土)	田中 謙 先生 日本大学 教授 ＜特別ニーズ教育＞	子どものキャリアを見据えた特別支援教育と保護者支援
第５回講座 10月11日(土)	吉田 浩之 先生 群馬大学 教授 ＜生徒指導＞	いじめ問題の理解と対応 －法，ガイドライン，事例等に基づく最新動向－
第６回講座 11月 8日(土)	小川 博士 先生 白鷗大学 准教授 ＜理科教育学・STEM/STEAM 教育＞	STEM/STEAM教育って何？ －これからの時代に必要な資質・能力の育成に向けて－

・参加者の状況（6回合計）

参加者数	215名（対面 155名 リモート 60名）
参加者の所属等	学校関係 64%（小学校 47%，中学校 13%，高等学校 4%） 行政関係 7%，学生 19% 他
参加者の出身大学	白鷗大学 47% 他大学等 53%（学校・行政関係者のみ）
講演に関する感想	満足 89%，やや満足 11%

【次年度に向けて】

県内外の先生方や卒業生・在校生に対する周知方法について検討するとともに，講座の内容について，本年度の各回の感想や参加者からの希望などを踏まえて期待に応えられるようなものとしたいと考え，次のページのような計画としています。

2026　現代的学校教育課題解決シリーズ日程

学び続ける教師のための教員研修リレー講座

近年の学校や教職員を取り巻く現状には厳しいものがあり，さまざまな課題に対する早急な対応が求められています。

本講座では，これらの「現代的学校教育課題」を解決する力を身につけていただけるよう，学びのネットワークづくりに賛同いただいた大学教員や専門家の方々が，白鷗大学を舞台に，それぞれの研究をもとにわかりやすく語りかけてくれます。

教職員の方，これから教員をめざす方，また学校教育に関心のある方など，共に学び合いながら成長していきませんか。さらに自分を学びの極みに導きたい方々のご参加をお待ちしております。

参　加　費　無　料

第１回講座 6月 6日(土)	【白鷗大学教育科学研究所 2025 年度助成成果報告会・研究交流会】 白鷗大学教育科学研究所の研究助成を受けた学内・学外の取組について，講演・ポスター発表で紹介します。※白鷗大学教育科学研究所との共催
第2回講座 8月 1日(土)	【今ここに教師として生きる勇気を】 白鷗大学 教授 黒羽 正見 先生 ＜教師教育＞ 迷い，不安，誤解，監視のまなざしの中でも，教室に立ち続けるあなたへ。今ここに，教師として生きる勇気を，静かに確かめ合います。
第3回講座 8月22日(土)	【次期学習指導要領が目指すもの】 白鷗大学 教授 上野 耕史 先生 ＜情報・技術教育＞ 次期学習指導要領が目指すもの，その理念を実現するための課題について，改訂の議論を通して考えます。
第4回講座 9月26日(土)	【通常の学級における特別な教育的ニーズに応じた教育実践】 日本大学 教授 田中 謙 先生 ＜特別ニーズ教育＞ 通常の学級における障害や発達特性等の特別な教育的ニーズを有する児童生徒を含む集団での教育実践のポイントを考えます。
第5回講座 10月10日(土)	【いじめ問題の法的視点と重大事態に至るプロセスの具体例】 群馬大学 教授 吉田 浩之 先生＜生徒指導＞ いじめを『重大事態』にさせないための，法と実例から学ぶ教育現場のリスク管理について考えます。 ※小山市立教育研究所主催研修「ステップアップカレッジ」を兼ねて実施いたします。

主　催　白鷗大学教職支援センター
後　援　栃木県教育委員会
会　場　白鷗大学大行寺キャンパス（3号館6階361教室　他）又は Zoomによるリモート
日　程　６月～10月の土曜日，5回 13時30分から15時まで
対　象　幼稚園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校等に勤務する教職員や教員を志す学生，教育に関心のある方など



申し込み方法　事前に以下の申し込みサイトから必要事項（①氏名，②所属，③電話番号，④E-mail，⑤出身大学，⑥参加希望講座，⑦予定参加方法）をご入力ください。

申し込みサイト URL　https://forms.office.com/r/C6q64Lqtr8

お問い合わせ　ご不明な点等がありましたら，E-mail でお問い合わせください。

E-mail：kyoshoku-center@ad.hakuoh.ac.jp

白鷗大学　教職支援センターニュース第４号

発行日：令和８（2026）年３月

発行所：白鷗大学教職支援センター
〒323-8585　栃木県小山市大行寺1117　FAX 0285-22-0800
E-mail：kyoshoku-center@ad.hakuoh.ac.jp